

## 第 70 回クラシックを楽しむ会

2019 年 12 月 8 日 (日) 16:00～ (約 4 時間、休憩除く)

タイトル：楽劇「ワルキューレ」(ワーグナー)

会場等：ザルツブルク復活祭音楽祭 50 周年記念公演  
ザルツブルク祝祭大劇場 (ドイツ)  
(2017 年 4 月 5 日プレミエ、8 日)

楽団等：シュターツカペレ・ドレスデン\*  
(ドレスデン国立歌劇場管弦楽団)

指揮：クリスティアン・ティーレマン

演出：ヴェラ・ネミロヴァ

出演：ペーター・ザイフェルト (ジークムント)

アニヤ・ハルテロス (ジークリンデ)

ヴィタリー・コワリョフ (ヴォータン)

アニヤ・カンペ (ブリュンヒルデ)

ゲオルク・ツェッペンフェルト (フンディング)

ワルキューレたち

その他



第 2 幕 父の命令で兄妹を引き離そうとするブリュンヒルデ(右)

\* ドイツ・ドレスデン(旧東ドイツ)に拠点を置く**ゼンパー・オーパー**(歌劇場)専属オーケストラで、1548 年にザクセン選帝侯の宮廷楽団として設立された。**デンマーク王立管弦楽団**に次いで世界で 2 番目に古い伝統を持つオーケストラ。ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とも称されている。

### 簡単なあらすじ

神々の長**ヴォータン**が人間女性に産ませた双子の兄妹**ジークムント**と**ジークリンデ**は生き別れていたが再会して愛し合う。**ヴォータン**が溺愛する娘**ブリュンヒルデ**は父に背いて**ジークムント**に味方する。**ジークムント**は**ヴォータン**に殺され、**ジークリンデ**は英雄**ジークフリート**を宿している。**ヴォータン**は**ブリュンヒルデ**を罰し岩山に眠らせる。なお、**ブリュンヒルデ**は**ワルキューレ**(戦死した勇者を神々の城に運ぶ戦乙女)たちの長女である。

### ザルツブルク復活祭音楽祭

ザルツブルク復活祭音楽祭は、1967 年にカラヤンがバイロイトに対抗して立ち上げた音楽祭で、2017 年に 50 周年を迎えた。**バイロイト音楽祭**は夏にドイツ南部のバイロイトで開催されるのに対して、**ザルツブルク復活祭音楽祭**は 4 月のイースターにオーストリアのザルツブルクで開催される。

### 2017 年公演について

今回上演された「ワルキューレ」は、50 年前にカラヤンが自ら演出した 1967 年の第 1 回公演の再演である。指揮者**クリスティアン・ティーレマン**は、カラヤンのアシスタントも務め、現在ザルツブルク復活祭音楽祭の音楽監督である。2017 年公演は、50 年前の舞台装置が現代に再現され、ブルガリア出身の女性演出家、**ヴェラ・ネミロヴァ**の新しい視点で"再創造"された。

### 第 71 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：喜歌劇「こうもり」(ヨハン・シュトラウス 2 世)

1 月 19 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

カルロス・クライバー指揮バイエルン国立歌劇場 1986 年公演。出演は他。

2 月以降、ザルツブルク音楽祭 2019 喜歌劇「天国と地獄」、バイロイト音楽祭 2019 歌劇「タンホイザー」、ザルツブルク音楽祭 2018 年 8 月の歌劇「スペードの女王」、ザルツブルク音楽祭 2014 年 8 月の歌劇「ドン・ジョヴァンニ」などを予定。

# 「ニーベルングの指環」

「ニーベルングの指環」4部作の台本はワーグナー自身が手掛けたもので、北欧神話、ドイツの叙事詩「ニーベルンゲンの歌」、ギリシャ神話などを独自に取り入れて創作した。物語は、手に入れた者は世界を支配できるという黄金の指環をめぐる、神々と人間と地下に住むニーベルング族とが争いを繰り広げ、最後に世界が崩壊するまでが描かれる。上演時間は合計で15時間も要する大作である。

- ・序夜 「ラインの黄金」 2時間40分
- ・第1日 「ワルキューレ」 3時間50分
- ・第2日 「ジークフリート」 4時間
- ・第3日 「神々の黄昏」 4時間30分

このうち第1日の「ワルキューレ」は単独で最もよく上演されている。以下は「ワルキューレ」を理解するための「ニーベルングの指環」概略である。長大で複雑な「ニーベルングの指環」全体の概略ではない。

## 「ラインの黄金」(序夜)

「ニーベルングの指環」全体の主題提示部と位置付けられる。ライン川底の黄金から指輪が作られた経緯、無限の力を持つ指輪がその後の「神々の黄昏」に至る原因を提示している。

神々の長**ヴォータン**は知恵の女神エルダに最愛の娘**ブリュンヒルデ**を生まれ、他の女神にも娘たちを生ませる。**ヴォータン**はブリュンヒルデとその妹たち9姉妹を**ワルキューレ**として育てる。**ヴォータン**は人間との間にも双子の兄妹**ジークムント**と**ジークリンデ**を生ませている。

- ・ラストの「**神々のヴァルハラへの入城**」は、圧倒的で雄大な音楽による名場面である。

## 「ワルキューレ」(第1日)

**ジークムント**は仇敵の妻にされている**ジークリンデ**と出会い、双子の兄妹であることが分かり愛し合う。**ジークリンデ**は英雄**ジークフリート**を宿し、**ジークムント**は仇敵である妻の夫に追われる。**ヴォータン**の愛娘**ブリュンヒルデ**は父に背いて**ジークムント**に味方したことから岩山に眠らされる。

- ・有名な「**ワルキューレの騎行**」は第3幕冒頭の音楽。第1幕、第3幕は単独でコンサートなどで上演されることも多い。

## 「ジークフリート」(第2日)

双子の兄妹の間に生まれた英雄**ジークフリート**の成長と冒険物語。ジークフリートは岩山に眠らされていた叔母**ブリュンヒルデ**に口づけして目覚めさせ、二人は愛と陶酔にひたる。

## 「神々の黄昏」(第3日)

英雄**ジークフリート**と叔母の**ブリュンヒルデ**は夫婦。黄金の指輪の呪いから、ブリュンヒルデはジークフリートを殺させてしまい、自身はジークフリートへの愛を歌いながら炎のなかに身を投げる。黄金の指輪はラインの川底に戻って呪いは解け、神々の城**ヴァルハラ**は火に包まれて崩壊する。

- ・「**ジークフリートの葬送行進曲**」、「**ブリュンヒルデの自己犠牲**」などは壮大で、締めくくりに作品に相応しい聴きどころである。

## 余談 名曲「ジークフリート牧歌」作曲の経緯、およびワーグナー夫妻と子供たちの名前について

ワーグナーの名曲「**ジークフリート牧歌**」はワーグナーが妻**コジマ・ワーグナー**の誕生日およびクリスマスの贈り物として作曲された室内オーケストラ作品。前年の息子ジークフリート誕生にねぎらいと感謝を示しもので、後に楽劇「ジークフリート」の「ジークフリートとブリュンヒルデの愛の場面」にも転用された。

ワーグナーの2番目の妻**コジマ**について。コジマは**リスト**の娘で母は作家**ダグー伯爵夫人**。名指揮者**ハンス・フォン・ビューロー**の妻となったが、夫と別居中にワーグナーと知り合って3児をもうけた。長女**イゾルデ**(楽劇「**トリスタンとイゾルデ**」)、次女**エヴァ**(楽劇「**ニュルンベルクのマイスタージンガー**」)そして長男**ジークフリート**(楽劇「**ジークフリート**」)は作品の主人公と同じ名である。

# あらすじ

## 【時と場所】

神話の時代、フンディングの家、岩山。

## 【登場人物】

ヴォータンが人間の女性に産ませた双生児の兄と妹

**ジークムント** (T) : ヴェルズング族の若者。仇敵ナイディング族と戦っている

**ジークリンデ** (S) : ジークムントの双子の妹。幼くして兄ジークムントと生き別れ、兄の仇敵ナイディング族の男フンディングに強奪された

ジークリンデの夫

**フンディング** (Bs) : ナイディング族の男。ジークムント達ヴェルズング族の仇敵

神々

**ヴォータン** (Br) : 世界を支配する神々の長。愛と欲望と掟の間で苦悩している。妻フリッカの尻にしかれている。先妻の子の他に、他所で子供をつくりその子供たちの運命を弄ぶ。知恵を手に入れるために片目を失った隻眼の老人

**フリッカ** (Ms) : ヴォータンの正妻。結婚の女神

ワルキューレ\*

**ブリュンヒルデ** (S) : ヴォータンが、"この世で最も賢い" 知恵の女神エルダに産ませた娘。ワルキューレの一人でヴォータン最愛の娘。他のワルキューレ 8 人はブリュンヒルデの妹たち

\* 戦死した勇士を選んで神々の城ヴァルハラに運ぶ「戦乙女」。ワルキューレは北欧神話のワル (戦場) とキューレ (選ぶ) から成る語である。

## 【第 1 幕】 森の中のフンディングの家

### 序奏

不気味な嵐の音楽がジークムントの逃走を表す。

### 第 1 場

戦いに傷つき嵐の中を逃れてきたジークムントはフンディングの家にとどり着く。中央に**トネリコの大木**がある。フンディングの妻ジークリンデはジークムントに水を与え、二人は強く引かれ合う。

### 第 2 場

主人フンディングが帰ってくる。彼は男の顔が妻と瓜二つであることに気付く。ジークムントの名乗りを聞いたフンディングは、ジークムントが仇敵であることを知る。今晚のみは客人として扱うが、翌朝には決闘することを申し渡す。

### 第 3 場

ジークリンデはフンディングに眠り薬を飲ませて眠らせ、ジークムントの寝床に忍び込む。二人は生い立ちを語り合ううちに双子の兄妹であることを知り、運命的な愛に身をゆだねる。ジークムントはトネリコの木に刺さった剣\*を引き抜き、二人はフンディングの家から逃亡する。

\* ヴォータンがジークムントのために用意した剣で、これまでだれも引き抜くことができなかった。ジークムントはこの剣を「ノートゥング」(苦難・危急の意) と名付ける。

## 補足. トネリコの大木について

北欧神話の世界樹ユグドラシルはセイヨウトネリコのこととされている。

楽劇「神々の黄昏」(第 3 日) の冒頭で運命の女神が「(ヴォータン)が水を飲み、泉に来て、永遠の叡智の代償に片方の目を差し出した。そして世界樹トネリコの木を折る。その枝の傷は大樹を弱らせ枯れてしまった」と歌う。



世界樹ユグドラシル



セイヨウトネリコ (ドイツ)

## 【第2幕】 荒涼とした岩山

### 序奏

双子の兄妹ジークムントとジークリンデの逃避行を表す。「ワルキューレの騎行の動機」が現れる。

### 第1場

神々の長ヴォータンは最愛の娘ブリュンヒルデに、ジークムントと仇フンディングの戦いでジークムントを勝たせるよう命じる。ブリュンヒルデが去ると入れ違いにヴォータンの正妻フリッカ\*が登場。フリッカは、ジークリンデの不倫、兄妹の近親相姦の罪を犯したジークムントを勝たせてはいけなさとヴォータンを非難する。妻の正論に負けジークムントを倒すことを誓約する。

\* フリッカ（結婚の女神）はヴォータンの正妻。先妻エルダ（知恵の女神）の娘がブリュンヒルデ。

### 第2場

ヴォータンは戻ってきたブリュンヒルデに、長い叙事的語りで神々の終末を予感させ、ブリュンヒルデはしぶしぶフンディングを勝利させるために出発する。

### 第3場、第4場

逃避に疲れ果てたジークムントとジークリンデが登場。ジークリンデは幻覚で気を失う。ブリュンヒルデが現れ、ジークムントに「ジークムントがフンディングとの戦いで死ぬ、死せる勇者はヴァルハラ\*に迎え入れられる」と告知。しかし、ジークムントは、ジークリンデとの離別を拒む。心を打たれたブリュンヒルデは、ヴォータンの命に背むく。

\* **ヴァルハラ**はヴォータンが巨人族に建設させた神々の城。ブリュンヒルデをリーダーとするワルキューレ(戦乙女)たちは戦場で死んだ勇者を選別してワルハラ城に運び、城を守らせる。

### 第5場

ジークリンデが意識を取り戻すと、雷鳴が轟き、ジークムントとフンディングの戦いが始まる。ブリュンヒルデに加勢されたジークムントが剣ノートゥングでフンディングをつき刺そうとしたとき、ヴォータンが現れ、剣ノートゥングを槍で砕く。剣を失ったジークムントはフンディングの槍に倒れる。ブリュンヒルデは失神したジークリンデを愛馬に乗せて逃げ去る。ヴォータンはフンディングをうち倒すと、命令に背いたブリュンヒルデを追う。

## 【第3幕】 岩山の頂き

### 序奏

「ワルキューレの騎行」の勇壮な響きのなか、ワルキューレたちが勇士たちを連れて岩山に集まる。

### 第1場

ブリュンヒルデが連れてきたのは勇士ではなく人間の女性ジークリンデ。怒るヴォータンが迫る中、ジークリンデは絶望して死を望むが、ブリュンヒルデはジークリンデの体に子供が宿っていることを告げ、**ジークフリート**と名付ける。感動したジークリンデは剣ノートゥングの破片を持って森へ逃げる\*。

\* 楽劇「ワルキューレ」の物語の後、ジークリンデは英雄ジークフリートを生んで死ぬ。次の楽劇「ジークフリート」で成長したジークフリートは剣の破片を鍛えて剣ノートゥングを蘇らせる。

### 第2場

激しい音楽とともに怒ったヴォータンが登場。他のワルキューレたちを追い払い、ブリュンヒルデに、「ワルキューレを除名し神性を奪う、父娘の縁も切る」と告げる。

### 第3場

ブリュンヒルデの弁明にヴォータンは心を動かされるが処罰は変えられないと告げる。ブリュンヒルデの必死の訴えに、ヴォータンはブリュンヒルデに最後の別れを告げて抱擁する。「**ヴォータンの告別**」の音楽。娘の希望をいれてヴォータンはついに「さらば、勇敢で気高いわが子よ」と歌いブリュンヒルデに口づけする。ブリュンヒルデは神性を奪われ、力を失って岩山に身を横たえる。「**魔の炎の音楽**」。"真の英雄のみが近づけるように" 炎がブリュンヒルデを取り囲む。ヴォータンは名残惜しげに去っていく。

## 出演



ザイフェルト  
(ジークムント)



ハルテロス  
(ジークリンデ)



コワリョフ  
(ヴォータン)



カンペ  
(ブリュンヒルデ)



ツェッペンフェルト  
(フンディング)

**ペーター・ザイフェルト** (1954 -) はドイツ・デュッセルドルフ生まれ。当代きっての**ヘルデン・テノール**\*歌手。世界的な名ソプラノ歌手**ルチア・ポップ**と結婚したが死別。人気ソプラノ歌手ペトラ・マリア・シュニッツァーと再婚し、ローエン格林、タンホイザーなどで共演している。

\* **テノール・ドラマティコ**のなかでもワーグナーのオペラは特別に強靱な喉を求められ、**ヘルデン・テノール** (英雄的なテノール) と呼ばれる。

**アニヤ・ハルテロス** (1972 -) はドイツ・ノルトラインヴェストファーレン州出身のソプラノ歌手。父はギリシャ人、母はドイツ人。BBC の声楽コンクール「シンガー・オブ・ザ・ワールド」で最高位を獲得した初のドイツ人歌手として脚光を浴び国際的デビューを果たした。本公演の翌年、バイロイト音楽祭に初出演して「ローエン格林」のエルザ役を歌った。

**ヴィタリー・コワリョフ** (1968 -) はスイス在住のバス歌手。幼いころピアノを学び、モスクワで教会の合唱指揮を学び、歌手を目指しながら、消防士として働いていたが、火災で怪我を負ったため合唱に専念。スイス人女性に見いだされてスイスのベルン音楽院で勉強することに。現在世界の主要歌劇場で活躍中。

**アニヤ・カンペ** (1968 -) はドイツ・チューリンゲン州生まれのソプラノ歌手。ドレスデンで学んだ後、イタリア・トリノで学ぶ。欧米の著名歌劇場で活躍中。本公演の翌年にはミュンヘン国立歌劇場で「ワルキューレ」のジークリンデ役を歌ってミュンヘン国立劇場(バイエルン国立歌劇場はそのひとつの施設)から「宮廷歌手」の称号を授与された。

**ゲオルク・ツェッペンフェルト** (1970 -) はドイツ西部ノルトライン・ヴェストファーレン生まれのバス歌手。ヨーロッパの主要歌劇場、バイロイトでも活躍中。オペラ以外に、バッハなどの合唱、オラトリオ作品などで著名な歌手と共演し世界的に活躍している。本公演の翌年、バイロイト音楽祭で「ローエン格林」のハインリッヒ王役を歌った。

**クリスティアン・ティーレマン** (1959 -) はドイツ・ベルリン生まれの指揮者。97年からベルリン・ドイツ・オペラ音楽総監督に就任。陰影の濃いワーグナー独特の音響を細部まで描きだし、雄弁なワーグナーの音楽をドラマティックに展開している。ウィーン・フィルのニューイヤヤー・コンサート 2019 にもデビューし、現代を代表する巨匠指揮者の一人。本公演の翌年、バイロイト音楽祭で「ローエン格林」を指揮している。

**ヴェラ・ネミロヴァ** (1972 -) はブルガリア・ソフィア生まれで(10歳から)ドイツに在住する演出家。ベルリンで演出を学ぶ。ベルリン・ドイツ・オペラ、ウィーン国立歌劇場などヨーロッパの名だたる主要歌劇場の他、ザルツブルク音楽祭などで精力的に活躍中。



ティーレマン



ネミロヴァ

# 参考

## ライトモチーフ

ワーグナーは「ニーベルングの指環」四部作で、物語の登場人物、あるいは道具や概念などを短い動機によって示すライトモチーフ（示導動機）の手法を駆使している。全体で82のライトモチーフが数えられ、そのうち22が「ワルキューレ」に現れるとされている。

「ワルキューレ」では、第2幕第1場の「ワルキューレの騎行の動機」、第3幕第1場の「ジークフリートの動機」と「愛の救済の動機」、および第3場「まどろみの動機」が特に有名である。これらの動機は、しばしば筋書きを予告するものとして現れる。

### 第2幕第1場 ワルキューレの騎行の動機



### 第3幕第1場 ジークフリートの動機



### 第3幕第1場 愛の救済の動機



### 第3幕第3場 まどろみの動機

